専念寺　木造 地蔵菩薩立像

修復報告書

平成 26 年 8 月 15 日

巧匠堂

専念寺　木造 地蔵菩薩立像修復報告書

作成日：2014 年 8 月 11 日

委　　託　　者　：　専念寺　（奈良県吉野郡大淀町大字西増 170 番地）
修 復 責 任 者　：　吉水快聞
施　　工　　者　：　吉水快聞　黒栁奈未子　鈴木冬野
修　復　期　間　：　平成 25 年 7 月 13 日～平成 26 年 8 月 15 日
目　　的　：　転落により損傷した像の尊容回復
内　　容　：　解体された各部材の再接合及び構造強化、クリーニング、剥落止め、
彩色層の剥落部分の補彩・漆塗・補箔、持物の錫杖の修正、
欠失、亡失部分の補作など

【保存状態】

像本体の制作年代は銘記などが現状では確認できないため定かではないが、光背と台座はその作風から江戸時代頃の後補とみられ、本体の彩色もその時に塗り直されたとみられる。

[本体]

・頭部面割り部分、両足先、左手先が脱落
・右目下から顎にかけての亀裂と顎部分に打撲痕
・宝珠の亡失
・錫杖が曲っており、環の亡失
・像全体の彩色層の剥落及び浮き上がり
・像全体に油煙の付着や埃の堆積

[台座　光背]

・安置されていた台から台座ごと転落したため、台座と光背の部材は解体状態にある。
・蓮台の正面最下段の蓮弁 2 枚とその上二段目の蓮弁 1 枚、計 3 枚が亡失
・岩を表した朽木部材　の亡失
・頭光周縁部天辺の宝珠に欠失
・部分的に泥地漆層の剥落や浮き上がり
・全体に油煙の付着や埃の堆積、虫食い跡

【修理方針】

◇安置箇所からの転落により脱落した部材や解体状態にある部材を再接合し、安置できる状態に回復する。また、必要に応じて、亡失した部材の補作を行い、尊容の回復を行う。
◇像全体に油煙の付着や埃の堆積がみられ、容姿を損ねていると同時に堆積が進行により湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるためクリーニング、剥落止め、補彩を行う。
◇台座は構造が非常に脆弱なため、今後の保存に耐えかねるとみられるため構造の強化を行う。また、光背のホゾなどゆるくなった接合箇所には材を足して、調節を行う。

修復前写真（全体）

修復前写真（本体）

【本体　修復内容】

①　玉眼の修復

玉眼の右目の裏から当てた楮の繊維と和紙に虫食い跡が見られたため、和紙を入れ直しを行い、右目の下から顎にかけての亀裂に酢酸ビニル樹脂を充填し接着を行った。

裏　　面部　修復前　　表

玉眼右目の楮繊維の虫食い（修復前）

玉眼右目の当て紙にも虫食いがあったため、新たに和紙を補充

楮の繊維をもみなおして虫食い跡を除去し、和紙を補充した当て紙をあて、当て木を竹釘で固定し、膠で接着。

②　剥落止め

遊離した面部材を接合した後、剥落した彩色層の破片を元の箇所にピンセットなどを用いて戻し、アクリル樹脂系接着剤を用いて剥落片の接着を行った。

頭部や衣部分など、遊離した彩色層には、アクリル樹脂系接着剤を充填し、熱ゴテを用いて圧着した。

②　クリーニング

エタノール精製水（１：１）を含ませた綿棒を用いてクリーニングを行った。全体的に油煙による汚れが頑固であったが、何度かクリーニングを重ねることで解消した。

③　補彩・古色

像全体の彩色層の割れや打撲による欠失箇所には胡粉で充填・補彩を行い、古色をほどこした。また眉毛・唇・眼の彩色は、後世の粗悪な修復が見られたため、できる限りの尊容回復を行った。

修復前

後世の粗悪な修理により埋まった玉眼（玉眼の上から瞳が描かれている）

クリーニング剥落止め後、胡粉による充填

補彩古色　修復後

④　亡失した宝珠の新補

ヒノキを用いて宝珠の補作を行った。

【錫杖】

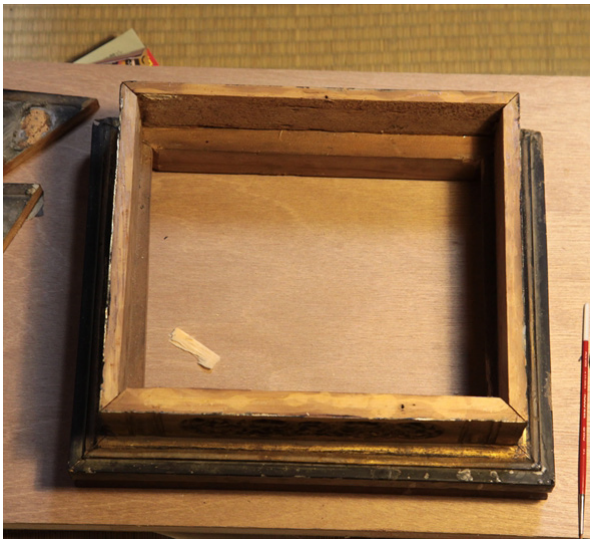
修復前

クリーニング後

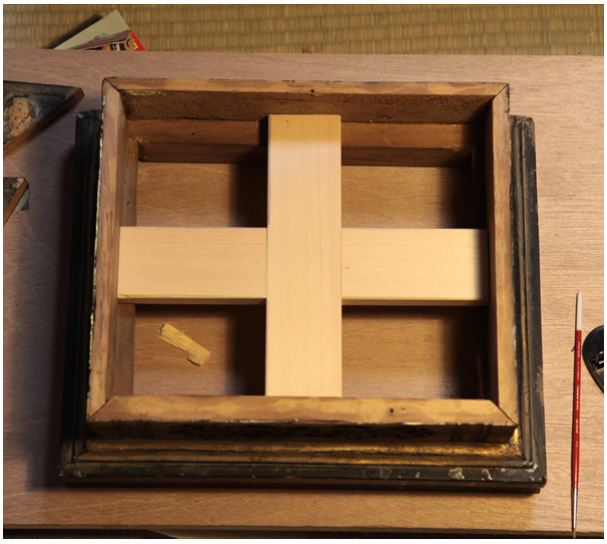
亡失した環の補作

【台座・光背　修復内容】

①　部材の接合及び構造強化



バラバラになった部材を接合

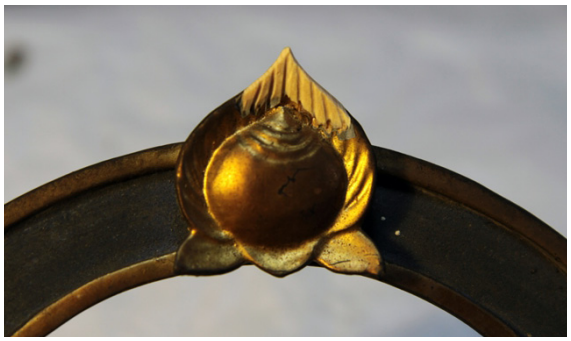


構造を強化

②　剥落止め・クリーニング

エタノール精製水（１：１）を含ませた綿棒を用いてクリーニングを行った。
遊離した漆層には、アクリル樹脂系接着剤を充填し、熱ゴテを用いて圧着して剥落止めを行った。

③　蓮弁・光背の宝珠・岩など、欠失・亡失部分の新補及び古色仕上げ



亡失・欠失部分を檜で補作。　　違和感のないように古色を施す。

亡失した岩に見立てた部材（4 部材）は、朽木を用いて補作し、違和感のないように古色を施した。

修復後写真（全体）

修復後写真（本体）

修復後本体写真